

## 世界の共有

島根県 島根県立松江南高等学校 三年

浅野 葉菜

「万物の尺度は人間」という古代ギリシアの代表的なソフィストとして知られるプロタゴラスの言葉があるように、同じものでも人の目が代われれば価値観は異なる。人の目には常に当人しか見えない世界があり、そこで見た景色や生まれた感情を他の人は触れることができない。それもそうであろう。どれほどの年月を経たとしても命が誕生した時から自分は自分であり、他の人になることはできないし、他の人も自分になることは当然できないのだから。

それにも関わらず、人はお互いを知る、知ってもらおうという関係を築くことで、どこか安心感を得ているように思えてならないのは私だけであろうか。お互いが自分を基準とした価値観を持っていることを重々承知している上で、相手を理解しようとする姿勢には何の意味があるのか。私はその意味を自分の日常生活の中から見つけることができた。

私は幼い頃から人と話すことが好きだ。そ

の理由の一つとして挙げられるのは、同じ話の内容でも話す相手によって返ってくる言葉が異なるという点である。そのため、話をした人の分だけ会話の展開があり、その都度違った会話を楽しむことができるからだ。話の内容は何だつていい。けれど、相手と話が合

わなければ結局は楽しい会話にならないのではない。特に相手が初対面だった場合、気を遣うこともあるだろう。相手に話を持ち掛けるという行為は、ある一種の未知なる冒険のようであり、話しかけてみるまでは相手の言動が予測しにくい。たとえば自分の好きなものの話をする時、食べ物、遊び、音楽など、話題の種としてのどの分野を取り上げたとしても自分と相手の好みが一致するとは限らない。ましてや、「好きではない」と、私の価値観を否定される可能性だってあるだろう。だが、話をする時の相手の表情や反応にはその人にしかない個性が溢れており、私はそれを目にした時、他の何処を探しても見つけることのできない、たった一つの宝石に出会えたかのような感覚に陥る。もし私のする話で自分のことを知ってもらえたら、笑顔になつてもらえたらと、思えば思うほど私の「話したい」という願望が膨らんでいき、それと同時に相

手のことをもっと知りたいと思うようになった。

人は相手との会話を通してただ情報を提供し合つてお互いを理解し合う、というよりはそれぞれの価値観を共有することで、当人しか見えなかった世界を覗かせてもらつていくように思える。そこで得た自分にはないものが、相手との価値観の共有を通して自分の視野を、世界を広げるキツカケになるだろう。そうして磨かれていく宝石には自分にはしかない「個性」という名の輝きが放たれているはずだ。

### 【自作紹介】

自分には見ええない世界がある。だからこそ相手を知る喜びもあれば、かえって不安になることもあるかもしれない。しかし、そういった感情を伴いながらも出会うことができ、未知の世界こそが宝であり、それを共有することで初めて“個性”になるのだと私は思う。

### 【学校紹介および文芸部の活動】

島根県立松江南高等学校は、部活動と勉強

の両立を掲げており、どちらも旺盛です。

我々文芸部は、平生すこしずつ作品を作ったり読書をしたりという活動内容で、一年間で一冊「紫苑（しおん）」という部誌を発行しています。

部員同士の仲も良く、銘銘が言葉に親しめるよう、自由な創作活動を行っています。